

- 10) 桑野和善. 最適な喘息治療のポイント. シムピコート発売1周年記念講演会. 東京, 1月.
- 11) 藤田 雄, 平野 聡¹⁾, 竹田雄一郎¹⁾, 堀尾雄甲¹⁾, 中道真仁¹⁾, 平嶋純子¹⁾, 平石尚久¹⁾, 水谷友紀¹⁾, 飯倉元保¹⁾, 仲 剛¹⁾, 泉 信有¹⁾, 小林信之¹⁾, 工藤宏一郎¹⁾(¹⁾国際医療研究センター). 血液悪性腫瘍治療中の胸部異常影における造血幹細胞移植例と非移植例の比較検討. 第33回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 横浜, 6月.
- 12) 藤田 雄, 飯倉元保¹⁾, 堀尾雄甲¹⁾, 森野英里子¹⁾, 石井 聡¹⁾, 仲 剛¹⁾, 平野 聡¹⁾, 泉 信有¹⁾, 竹田雄一郎¹⁾, 杉山温人¹⁾, 小林信之¹⁾, 工藤宏一郎¹⁾, 大楠清文¹⁾(¹⁾国際医療研究センター). 気管支鏡検体の遺伝子学的解析で診断し得た *Actinomyces graevenitzi* 肺放線菌症の1例. 第193回日本呼吸器学会関東地方会. 府中, 2月.

IV. 著 書

- 1) 桑野和善. 5. 呼吸器疾患 特発性肺線維症. 山口徹, 北原光夫, 福井次矢総編集. 今日の治療指針: 私はこう治療している. 2010年版. 東京: 医学書院, 2010. p.256-7.
- 2) 桑野和善. 第3章: ARDSの病態生理 6. ARDSとアボトーシス. 石井芳樹編. 最新ARDSのすべて: 別冊「医学のあゆみ」. 東京: 医歯薬出版, 2010. p.43-8.

V. その他

- 1) 福地義之助(順天堂大学), 桑平一郎, 桑野和善, 佐田 誠. 座談会 COPD併存症と薬物治療の効果. COPD FRONT 2010; 9(1): 4-11.

総 合 診 療 部

教 授	: 法橋 建	総合診療, 臨床神経学, 脳血管障害の病態生理, 頭痛
教 授	: 武田 信彬	総合内科学, 循環器病学, 糖尿病学
教 授	: 多田 紀夫	総合診療, 脂質代謝学, 高齢医学, 医学教育, 臨床栄養学, 臨床検査学
准教授	: 鈴木 英明	総合診療, 循環器病学
准教授	: 西山 晃弘	総合内科学, 循環器病学, 脂質代謝学
准教授	: 根本 昌実	総合内科学, 糖尿病学
准教授	: 吉田 博 (臨床検査医学より出向)	総合診療, 脂質代謝学, 高齢医学, 動脈硬化, 臨床栄養学, 臨床検査学
准教授	: 古谷 伸之	総合診療, 医学教育
特准教授	: 平本 淳	内科学, 総合診療, 消化器病学
講 師	: 四方 千裕	総合内科学, 呼吸器病学
講 師	: 海老澤高憲	総合内科学, 糖尿病学, 内分泌学

教育・研究概要

【本院】

1. 当科受診患者の受診状況のデータベース化
 専門診療科が中心となる当病院の内科診療部門において、初診診療を中心とした機能を考慮し、当科が担当する多岐にわたる症候・症状についての診療状況を分析している。診療の情報は、当科を受診するすべての患者について、受診理由（主訴となった症状・症候）、初診・再診の別、紹介の有無、初期診断名、診療内容や転帰（他科への依頼や他院への紹介の状況など）を担当医自身が1例毎に診察後に所定の用紙に記載する。集められた情報のうち、症状・症候名と診断名はプライマリ・ケア国際分類第2版（ICPC-2）を用いてコード化し、データベース化している。特に初診症例を中心としたこれらのデータの蓄積により、総合外来における、特定の症候における診断名の分布など、当科受診患者の特性を分析・考察することが可能と考えている。

【青戸病院】

高血圧, 糖尿病の心臓に対する影響を研究した。また、森林浴の身体への影響, 特に交感神経を介しての血圧への影響を他施設との共同研究で行った。

さらに、海外との共同研究では、ドイツおよびカナダのグループと心不全のメカニズムに関する研究を行った。

【第三病院】

1. 高齢入院患者の感染症発症の検討

高齢入院患者が入院中に発症する感染症の要因について、栄養面、投与薬剤、その他の面から検討を続けている。入院時の栄養状態が悪い患者に感染症が発症しやすかったほか、酸分泌抑制薬投与が感染症発症を促進し、粘膜保護薬が感染症発症を抑制していることが判明した。全身状態、疾患の重症度など他の要素を含めて引き続き検討してゆく。

2. 不明熱に関する検討

原因不明の発熱で入院してくる症例について、原因(ウイルス性感染症、細菌感染症、免疫アレルギー疾患、悪性疾患など)を明らかにする方法について、従来の方法(白血球とその分画、CRP、血沈など)と新しい指標(ADA、2-5AS 活性、可溶性IL2レセプター、プロカルシトニンなど)との比較検討を行っている。

【柏病院】

1. 地域医療における総合診療部のあり方に関する研究

柏市医師会との連携のもと県医師会主導の生涯教育委員会、勤務医部会などを通じ地区医療を実践活動した。とりわけ市健康行政との関連は重要であり、柏市保健衛生審議会委員となり保健所との連携のあり方を検討した。柏市病院栄養士会を中心に、柏市、柏病院栄養部などと共に住民ケアの一環として運用している「柏市地域栄養相談システム」に対し「平成22年度ちば県民保健予防基金助成」が授与された。また、柏市「特定検診・特定保健指導」運営実行委員として、健診医療のあり方を研究した。その中で、point of care testing (POCT) としての脂質測定的重要性が浮揚し、携帯型小型迅速生化学検査装置の開発、普及に関与した。さらに、柏市医療WGの一員とし、高齢者医療に関するフィールド・アプローチも検討中である。

2. 脂質代謝および動脈硬化の研究

1) 我が国の心血管病発症と食生活との関連性をこれまで報告された疫学的文献の網羅的解析の中から探求し、冠動脈疾患を起こしにくい日本食(the Japan diet)とはいかなるものであるかを検討、JAT誌に報告した。

2) アポ蛋白B48測定にて食後高脂血症に対する脂質負荷、糖負荷の意義を引き続き検討した。

3) HDLならびに血清の抗ウイルス作用を検討

するため、ファージを用いて *in vitro* で実験し、抗ウイルス血清分画を抽出した(臨床医学研究所との共同研究)。

4) 我々が確立した新規HPLCリポ蛋白定量法であるanion-exchange HPLCを用いLp(a)分画の測定に成功した。さらに運動療法の脂質代謝改善のモニターとしてVLDLコレステロール測定の有用性を見出した。また、新規酸化LDL測定法であるMDA-LDLの臨床的特徴を評価した。

5) Jikei Heart Studyの性差サブ解析の成績について、とりわけ男性および高齢女性に認められたバルサルタン投与による心血管病予防効果を報告した。

6) アスタキサンチンによるトリグリセリド、HDL-Cおよびアディポネクチン改善作用を明らかにし報告した。

7) 磁気ナノ粒子を用いた物質のデリバリーシステムが開発に成功し、ガン治療、動脈硬化治療への応用を模索した。

3. 教育関連

柏病院における学生の臨床実習、選択実習に積極的に参画した。多田紀夫教授は柏病院学生実習委員会委員長を務め、古谷伸之准教授は学内カリキュラム委員会委員、臨床実習教育委員会委員として新橋校と柏病院の架け橋となり活躍している。

「点検・評価」

【本院】

EBCPはプライマリケア領域で特に重要と思われるスキルであり、質の高いevidenceを必要とする。研究機関である大学では、evidenceを利用するのみならず、臨床研究により構築していく義務がある。これまでに行ってきた研究を、総合診療やプライマリケアの領域でのevidence構築の礎としたい。また、本学の4年生に対するチュートリアル形式をとったEBCP教育にも携わっている。

一方、2008年度から、5年生の臨床実習において、内科の外来実習が組み込まれ、当診療科が中心となってカリキュラムを遂行している。毎週2~3人ずつの小グループを受け入れ、外来診療の現場における医療面接の実際、診断学・症候学的な見地からの診療の実際を教育している。

【青戸病院】

Sarpogregrateをはじめ、糖尿病心臓障害を軽減する作用のある薬剤を基礎的研究で見出したが、臨床的に同様の作用があるかは今後の検討課題である。森林浴の生活習慣病に対する効果に関してもデータ

が蓄積されつつある。

【第三病院】

高齢入院患者の感染症発症の検討：栄養状態の悪さが入院中の感染症発症につながる事が判明し、早期から経管栄養など栄養管理を実施につながった。その結果、中心静脈栄養が減少し、入院中の感染症発症が著明に減少、入院日数も減少した。他機関からも同様の報告がでており、誤嚥性肺炎診療マニュアルにも掲載させていただいた。

不明熱に関する検討：発熱など症候からの検討は、臓器別診療では検討しにくい課題で、総合診療部ならではの課題と考えている。研修医をはじめとした若手医師が身に着けるべき、症候からの診療技術の指導にも大いに役立っている。プロカルシトニンの迅速検査は敗血症の早期発見に有効で、救急診療の場面で大きく役立っている。

【柏病院】

柏病院総合診療部は新設以来11年目を迎えた。ここで開発された柏市地域栄養相談システムは「ちば県民保健予防基金」からも助成を受けた。臨床研究も進行しており、その成果は多くの英文誌に採択され発表する機会が得られた。本年度、最も力を注いだことは、日本動脈硬化学会第11回動脈硬化教育フォーラム（平成23年2月浅草）を主管したことである。かつての留学先の恩師であるNestle教授を招聘し「NEW PERSPECTIVES ON DIETARY FATS & CARBOHYDRATES IN CORONARY HEART DISEASE & DIABETES PREVENTION」と題する講演を頂いた。併催した市民公開講座も盛況であり、455名の市民が参加した。学生教育においては、昨年度に続き、薬科大学からの学生を臨床実習も医学生と共に引き受け、職種間の医療協力を目指した臨床実習の試みを展開した。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Das S, Babick AP, Xu YJ, Takeda N, Rodriguez-Levy D, Dhalla NS. TNF-alpha-mediated signal transduction pathway is a major determinant of apoptosis in dilated cardiomyopathy. *J Cell Mol Med* 2010; 14(7): 1988-97.
- 2) 柳内秀勝, 友野義晴, 吉田 博, 多田紀夫. ジアシルグリセロール油のメタボリックシンドロームに対する応用の検討. *臨病理* 2010; 58(1): 39-44.
- 3) Yanai H, Kaneko H, Yoshida H, Tada N. A significant association between impaired glucose metabolism and polymyalgia rheumatica. *J Atheroscler Thromb* 2010; 17(10): 1108-9.
- 4) Yoshida H, Ishikawa T, Suto M, Kurosawa H, Hiro-watari Y, Ito K, Yanai H, Tada N, Suzuki M. Effects of supervised aerobic exercise training on serum adiponectin and parameters of lipid and glucose metabolism in subjects with moderate dyslipidemia. *J Atheroscler Thromb* 2010; 17(11): 1160-6.
- 5) Wohlschlaeger J, Meier B, Schmitz KJ, Takeda N, Vahlhaus C, Levkau B, Stypmann J, Schmid C, Wermer-Schmid K, Baba HA. Cardiomyocyte survivin protein is associated with cell size and DNA content in the failing human heart and is reversibly regulated after ventricular unloading. *J Heart Lung Transplant* 2010; 29(11): 1286-92.
- 6) 伊藤公美恵, 友野義晴, 吉田 博, 保科定頼, 多田紀夫. 携帯型小型迅速生化学検査装置「コレステック LDX」の検討 Point of care testing (POCT) としての脂質測定法について. *医と薬学* 2010; 64(5): 491-6.

II. 総 説

- 1) Takeda N. Cardiac disturbances in diabetes mellitus. *Pathophysiology* 2010; 17(2): 83-8.
- 2) 多田紀夫. 【職域におけるメタボリックシンドローム対策と特定健診・保健指導】メタボリックシンドロームにおける脂質異常症の治療. *成人病と生活習慣病* 2010; 40(5): 491-6.
- 3) 伊藤公美恵, 吉田 博. 特集：高齢者疾患・治療の話題 高齢者の脂質異常症. *Medicament News* 2010; 2027: 7-8.
- 4) 伊藤公美恵, 柳内秀勝, 古谷伸之, 佐藤能理子, 多田紀夫, 吉田 博, 友野義晴. Apo C-II 欠損症へのジアシルグリセロール油の治療的応用. *Prog Med* 2010; 30(5): 1452-61.
- 5) 多田紀夫. アポリポタンパク CII 欠損症の診断. *医事新報* 2010; 4514: 92-3.
- 6) 多田紀夫. 【メタボリックシンドローム（第2版）基礎・臨床の最新知見】予防・管理・治療 メタボリックシンドロームの薬物療法 脂質代謝異常が主体のメタボリックシンドロームの薬物療法 フィブラート系薬. *日臨* 2011; 69(増刊1メタボリックシンドローム): 614-20.
- 7) 多田紀夫. 【炎症と動脈硬化 基礎・臨床研究の最新動向】動脈硬化の予防・治療 抗動脈硬化・抗炎症の観点から 動脈硬化の予防・治療のための食事療法. *日臨* 2011; 69(1): 110-8.

III. 学会発表

- 1) 多田紀夫. 職域における動脈硬化性疾患の一次予防

- 対策. 日本動脈硬化学会実地医家・職域における動脈硬化性疾患予防のための「脂質異常症治療ガイド」普及・啓発セミナー. 米沢, 4月.
- 2) 佐々木淳, 及川眞一, 佐野隆一, 多田紀夫. 日常診療, 職域における動脈硬化性疾患予防の最前線. 実地医家・職域における動脈硬化性疾患予防のための「脂質異常症治療ガイド」普及・啓発セミナー. 米沢, 4月.
- 3) 多田紀夫. 長寿のための食生活. 平成22年度東京慈恵会医科大学大学院特別講義. 東京, 5月.
- 4) 多田紀夫. 職域における動脈硬化性疾患の一次予防対策. 日本動脈硬化学会日本動脈硬化学会. 実地医家・職域における動脈硬化性疾患予防のための「脂質異常症治療ガイド」普及・啓発セミナー. 高松, 6月.
- 5) 佐々木淳, 及川眞一, 松岡信夫, 寺本民生, 多田紀夫. 日常診療, 職域における動脈硬化性疾患予防の最前線. 実地医家・職域における動脈硬化性疾患予防のための「脂質異常症治療ガイド」普及・啓発セミナー. 高松, 6月.
- 6) 古谷伸之. 研修医評価とポートフォリオ. 第7回労働者健康福祉機構臨床研修指導医講習会. 横浜, 6月.
- 7) 金網友木子, 木村 愛, 中尾正嗣, 小倉 誠, 多田紀夫. 急速な腎機能低下と消化管穿孔を発症したコレステロール塞栓症の一部検例. 第5回動脈硬化症例検討会-専門医とともに考える-. 東京, 7月.
- 8) 多田紀夫. 動脈硬化予防の食事療法. 生活習慣病懇話会. 長岡, 7月.
- 9) 古谷伸之, 川村哲也. 1名の教員による臨床実習直前の4日間集中導入授業. 第42回日本医学教育学会大会. 東京, 7月.
- 10) 坪田昭人, 保科定頼, 並木禎尚, 多田紀夫. 酸化ストレス誘導性の肝腫瘍原性遺伝子. 第42回成医会柏支部例会. 柏, 7月.
- 11) 多田紀夫. 脂質代謝異常食事療法のエビデンスと実際. 日本栄養士会メタボリックシンドローム予防のための健康セミナー. 和歌山, 9月.
- 12) 多田紀夫. 現代の養生訓. 第3回東葛女医の会. 柏, 9月.
- 13) 多田紀夫. 「生活習慣病から身を守るには」糖尿病患者さんの脂質コントロール. 三越厚生事業団第33回健康セミナー. 東京, 11月.
- 14) 多田紀夫. 生活習慣病における脂質異常症の治-内科医から小児科医への提案. 葛飾区医師会小児生活習慣病予防健診講演会. 東京, 11月.
- 15) 古谷伸之. いつもの診療をアップグレード~診療・診察の秘訣を攫んでより深い診断領域へ. 第79回医療技術セミナー“スキルアップ”. 東京, 7月.
- 16) 古谷伸之. 臨床の中で学生にどのように教えるか. 藤田保健衛生大学臨床実習 faculty development. 豊明, 11月.
- 17) 伊藤公美恵, 友野義晴, 佐藤能理子, 尾藤通世, 柳内秀勝, 吉田 博, 並木禎尚, 坪田昭人, 保科定頼, 多田紀夫. 脂肪食負荷後のアポ蛋白B48の動態. 第43回成医会柏支部例会. 柏, 12月.
- 18) 古谷伸之. 身体診察のスキルアップ. 第10回長崎・佐賀若手医師のための実力アップセミナー. 長崎, 2月.
- 19) 古谷伸之. 誰も教えてくれなかった日常診療の極意~古くて新しい最先端プライマリケア診療. 第1回指導医と研修医のためのプライマリケアセミナー. 出雲, 3月.

IV. 著 書

- 1) 多田紀夫. 第1章: パネルディスカッション「動脈硬化とその周辺」 3. 動脈硬化と生活習慣. 亀田治男, 矢富裕, 河合忠, 滝川一編. メディコピア51: 動脈硬化をめぐって: 予防と治療の新しい展開. 東京: 富士レビオ, 2010. p.40-67.
- 2) 多田紀夫, 小林明美, 荒木達夫. 第3章: 脂質異常症の食事療法 (Q31~43). 寺本民生 (帝京大学), 佐々木淳 (国際医療福祉大学) 編. 脂質異常症診療Q&A: 動脈硬化性疾患予防ガイドラインを実地診療に活かすには. 東京: 日本医学出版, 2010. p.39-59.
- 3) 古谷伸之他監修, 医療情報科学研究所編. 病気がみえる: Vol.2: 循環器. 第3版. 東京: メディックメディア, 2010.